

長崎歴史文化博物館では、美術展示室や町屋の展示替えを定期的に行っております。  
是非、ご取材・情報掲載の程、宜しくお願い申し上げます。

## 美術展示室 特集展示「おめでたきモノたち 吉祥画」

美術作品はもともと商品であり、家を飾るモノでした。おめでたい内容を描いた吉祥画には、それゆえに多くの需要がありました。南蘋派の作品が江戸時代に隆盛を極めたのも、その作品に吉祥性の高いシンボルが数多く秘められていたからでもあります。

本展では、平成29年度の干支である「酉」をかたどった作品とともに、色々な福にまつわる作品を展示いたします。鶴に松竹梅を描いたものから七福神の神々、さらには豪快でご利益がありそうな書——新しい年を迎えるにあたり、かつての人々がどのような気持ちでモノをみていたのか感じていただければ幸いです。



**「寿老人図」渡辺秀石**  
七福神のメンバーでもある頭の長い寿老人は、天下泰平と長寿をもたらすという伝説がある南極老人星（カノープス）を擬人化した中国の神さまである。鹿を伴うもの、鶴に乗る姿でもよく表現される。



**「百寿図」作者不詳**

渡辺秀石「鶴寿老人図」と同じ趣向の構図で、さらに周囲を霊符のような百種類の「寿」の字で埋め尽くしている。童子の杖に括り付けられている卷子には、人間の寿命が書かれていると伝えられている。めでたさが溢れる本図は、長寿祝いに飾るための注文作品と考えられる。



**渡辺鶴洲「福祿寿三星図」**

幸福や子孫に恵まれるという福星、富を象徴する禄星、長頭で長寿を約束する寿星を、それぞれ擬人化している。3人揃って福・禄・寿という、この上なくめでたい組み合わせである。

### 特集展示「おめでたきモノたち 吉祥画」

会期： 2016年12月20日（火）～2017年2月19日（日）

会場： 美術展示室（2階常設展示室 歴史文化展示ゾーン内）

時間： 8:30～18:00（最終入館17:30）

観覧料： 常設展観覧料でご覧いただけます（大人600円 小中高校生300円 ※県内小中学生は無料）

### 関連展示 町屋「正月」

お正月にちなんだ町屋飾りと、伝統料理を再現展示します。

展示期間： 2016年12月27日（火）～2017年1月15日（日）

会場： 常設展 歴史文化展示ゾーン 町屋

時間： 8:30～18:00（最終入館17:30）

観覧料（常設展）： 大人600円 小中高校生300円 ※県内小中学生は無料



長崎の正月の風景を描いた川原慶賀の年中行事絵を参考に正月飾りを再現しています。

長崎の正月料理で特徴的なのは雑煮と南蛮漬けです。現代でおせちといえば重箱ですが、元来はお膳でいただくもので、お屠蘇に始まり、一の膳、二の膳と続くのが本式です。その他、恵方棚や門松、しめ縄飾りなどを展示しています。

